

平成14年1月第23号

発行所 那珂郡東海村
村松1292-2
茨城県弓道連盟
電話 (029-282-3580)

弓道いばらき



新世紀にふさわしく

茨城県弓道連盟会長

関 宗 長

新年あけましておめでとうございませす。弓友の皆様にはご健勝のことと存じます。

お陰様で、伝統を誇るわが県弓連は創立以来五十年、弓道人口は増加し、施設も指導陣も充実し、量質ともに発展して参りましたことは慶賀すべきことです。長年に亘る役員及び会員各位のご精進、ご努力に心から敬意を表し感謝申し上げます。

さて、戦後の混乱と貧困の中から日本が急速な復興をして、経済大国に成長したことは世界の驚異でした。その原因は日本の教育と日本人の勤勉さにあるといわれ、その底流には、日本伝統の武道精神があるからだといわれました。

しかし、今の日本はどうでしょう。現今の日本社会は改革を叫ぶことが最もふさわしい程、閉塞状態にあります。動議の退廃、教育の混乱、経済不況など社会全体の混乱がひどく、ややもすれば日本

人が誇りを失い、日本の前途を危惧する声が高いのであります。

だから、今こそ、私どもは伝統武道である弓道の原点をみつめ、弓道の歴史をふり返り、日本弓道の歴史の一駒をなう者として、弓道修練の目的は何か、弓道発展のために何をすべきかを再確認し、いっそう精進、努力をしなければならぬと責任の重大さを痛感しています。

そこで思い出すままに、私の希望を申し上げます。初心者から高段者までに

継続は力なりといわれます。激変する社会ですから個人の生活もつねに一定ではありませんが、つねに、弓矢を生活の一部として続ける努力をしてください。

○先生、先輩、仲間との絆を大切に。そのためには、できるだけ多くの弓会に進んで参加することです。

○弓具の整備、充実に努めてください。「弘法筆を選ばず」の真の意味は、逆に「選ぶ」ということの戒めのようにです。

○自分の弓と取り組む意味を常に確かめて下さい。そして、精進の努力目標とスケジュールを具体的に立てて下さい。

○高段者は、弓道発展のために働いて下さい。指導することは、自己修練にも直接つながります。よく「一人稽古はだめ、三人稽古をせよ」といわれます。あなたが弓道教室を開設できたならばらしいことです。

○指導者は、尊敬され、弓道人の仲間から憧れの人になるよう心掛けて下さい、射技がいかにかりつぱでも、それだけでは弓道人としての一部ではありません。

○次に日弓連の指導者講習会の講師の先生のご感想ことばのはしはしから拾ってみました。このことは称号者向けの

ことですが、よい感想としては、「弓道への取り組み姿勢がいい。日頃の切磋琢磨の姿勢が見て取れる」「受講生が若い人になり、気合いと張りのある射が目についた」「指導を素直に受け入れ、吸収しようとしており、指導者としての意欲を感じた」

注意すべき点としての指摘は、「指導者としての自覚に欠ける」「精神面でのマナーも実技と同等に必要だ。重要なことは人間的成熟だから」「弓術のみ追いかけて、射に自分との關いがない。心が練られていない」「指導者は、弓をのみ教えるのではなく、弓道の心を伝えて欲しい」

「指導者は、親切・丁寧・公平な指導を」と、いずれも含蓄のある言葉です。私どもは幸いにして、新世紀の初頭に際会しております。お互い、すばらしい歴史をつくりたいものです。会員の皆様に大きな期待を申し上げます。



スペイン派遣
日本武道団に参加して

関根 村 夫

平成十二年二月中旬、全日本弓道連盟より「四月にスペインのオビエド市で開催される武道祭に、日本古武道七流派と現代武道二道(弓道・少林寺拳法)で構成する日本武道団に参加するように」との通知を受けて少なからず慌ててしまった。弓道の修業年数も浅く自信も持てない未熟者が、国際武道祭で日本弓道を披露するなど沙汰の限りとは思ったが、杉本高信範士、尾田俊一教士とご一緒のことであり、勉強の機会を与えて頂いたことに感謝し参加することにした。

四月十四日夕刻、成田市全日空ホテルで結団式、総数三十五名。花輪六太郎団長の挨拶から、スペイン訪問は平成八年に続いて二回目であり、弓道と少林寺拳法の参加は現地の強い要望であることを知り、責任の重さを痛感した。

翌十五日、予定どおり全日空二〇〇一便でロンドンに向け出発、ロンドンからはイベリア航空でマドリッド経由、オビエド到着の予定が、飛行機のトラブルから出発が大幅に遅れてマドリッド止まりとなり、同空港の固い椅子で徹夜となるハプニングが起きた。不満の一言くらいでもおかしくない状況だったし、一般の観光ツアーだったら添乗員は恐らく吊るし上げられただろうが、なんの混乱もなく静かに刻を過ぎていたのは「さすがに武道人」と仲間内ながら誇りに思った次第。翌朝の便でオビエドに到着、ながいながいフライトだった。オビエドはアストウリアス州の中心都市であり、山と海の接点に広がる瀟洒な小都市だ。遠く輝く残雪の山脈が美しい。人口十八万と聞

にブルーのシートを張ったしつかりしたものだ。矢を撥ねることもなく、刺さりすぎもせず、造った方々のご苦労に感謝した。ただ、床面には他の武道の演武のための畳を敷きつめたところがあり、流れるような一つの体配は無理と覚悟した。又、射距離二八mとれず、ぎりぎり二五mが限度だったが、いつも恵まれた施設と環境で稽古している私達にはよい経験となった。

午後六時三〇分より開会式。日本武道団、スペイン武道団の道々の入場行進、両国の国旗掲揚と国歌演奏、観客はいっせいに起立して敬意を表してくれ、マナーのよさに感心した。各流派とも演武時間が七・八分と限られているので、私達も定めの座の作法を本座で行なう「一つの謝礼」を演ずることにした。弓道の演武は第一部の一番だったが、極度の緊張の裡にも無事大任を果たすことができたことは幸せだった。一射毎に館内を揺るがす大きな拍手をおくってくれた観衆の心の暖かさが忘れられない。

ないこの地方で、日本武道が深く浸透している事実には只々驚きばかりだった。各流派の演武のほか、地方武道団(子供が多い)の柔道、空手、合気道など演技のすべてが終了したのは午後九時三〇分を過ぎていた。民族豊かなバグパイプの演奏を最後にスポーツパレスを後にし、武道祭終了のパーティーと当地柔道連盟五〇周年記念式典を兼ねたレセプションに参加。荒船大使も出席した宴は延々夜中の二時頃まで続いた。参加者は約四〇〇名、この地方に日本武道の愛好者が多いのは五〇年以上の歴史に培われたものであることを知った。

七のアーチがあるという。セゴビアは天然の要害で、丘の上の町に水を引く必要から水道橋が築かれたのだそうだ。驚いたことに御影石だけを使い、漆喰もセメントも使わず二〇〇〇年ものあいだ崩れずに建っているという。地震国日本では考えられないことだ。しかも最近まで水が流れていたのだぞうな。次にテイズニーの「白雪姫」のお城のモデルといわれるセゴビア城(アルカール)を見学した。絶壁を巧みに利用した建築技術にも驚かされるが、まるで玩具のようなきれいな城だ。

十七日、オビエド市長、アストウリアス州議会議長を表敬訪問、休む間もなくスポーツパレスでのリハーサルに臨む。日本出発の前に、全弓道事務局に現地の状況を尋ねたが、「弓道に関する情報は皆無」とのことだったので塚の材料と構造が心配だった。しかし牧草を固めたようなもので築き、表面

翌十八日、バスでゴバドンガ大聖堂を見ての帰り道、楊心流薙刀の女性剣士の希望で立ち寄った大西洋の眺望はすばらしかった。眼下に浮かぶ小島には白い海鳥が舞い、果てしなく続くコバルト色のおだやかな海、見なれている大平洋とは一味違った趣だった。

十九日、お世話になったオビエドを發つて首都マドリッドからセゴビアへ。「セゴビア」とは聞き覚えがあるようなと思ったら千代田町のゴルフ場の名だった。セゴビアは歴史の町だ。最初に訪れたのは巨大なローマ時代のモニュメント「水道橋」。全長七〇〇m余、高さは最高部で二八m、一六

このたびのスペインの旅は、ヨーロッパを知らなかった私にとっては生涯の思い出となるだろう。そして帰国した安堵感と、長旅の疲れから帰宅のハズルさばきが怪しくなり、江戸崎の田圃に飛び込みそうになったが危うく

それにしても四〇〇を越す大観衆が何に興味を示して集まるのか不思議だったが、プログラムにある荒船大使の挨拶に「アストウリアス市民には日本武道の愛好者が多く一万人が練習している」とあり、殆ど日本人を見かけ

十九日、お世話になったオビエドを發つて首都マドリッドからセゴビアへ。「セゴビア」とは聞き覚えがあるようなと思ったら千代田町のゴルフ場の名だった。セゴビアは歴史の町だ。最初に訪れたのは巨大なローマ時代のモニュメント「水道橋」。全長七〇〇m余、高さは最高部で二八m、一六

それにしても四〇〇を越す大観衆が何に興味を示して集まるのか不思議だったが、プログラムにある荒船大使の挨拶に「アストウリアス市民には日本武道の愛好者が多く一万人が練習している」とあり、殆ど日本人を見かけ

それにしても四〇〇を越す大観衆が何に興味を示して集まるのか不思議だったが、プログラムにある荒船大使の挨拶に「アストウリアス市民には日本武道の愛好者が多く一万人が練習している」とあり、殆ど日本人を見かけ

セーフ。これも忘れられないことのひとつなのです。

追記 同行した古武道の流派
鹿島新当流剣術
宝蔵院流槍術
楊心流薙刀術

水嶋流居合剣法
本體 楊心流
諸賞流
琉球古武術
少林拳法(現代)

京都三十三間堂通し矢のこと

矢吹 三郎

全日本弓道連盟の競技規定では、遠的の射距離六十米、的は一メートルと定められているが、往年の遠的は三十三間(五九・九九米)で五尺(一・五二米)の的であったことを思い出す。

京都三十三間堂は、柱と柱の間数三十三間(二一・六四米)であるから六十六間(二九・九米)の距離となり、庇と庇下の空間を完全に通過させる、いわゆる通矢であるからその技術・訓練は容易なものではなかった。と感服させられている。(庇或いは廊下や柱に矢痕が今でも残っている)

現代弓道人として、先人の故事を知り、精進の糧とするも決して無駄ではあるまいと、星野勘左衛門の偉業を考察した。

一、時代背景

徳川の天下統一により、大衆は平和

寛文元年(一六六一)尾州星野勘左衛門は前後六回試みて五二〇本を記録した直後、紀州吉見台衛門が六三四本を出し、尾州を破った。翌二年、尾州星野勘左衛門が六六六本を記録すれば、六年後の寛文八年(二六六九)五月に紀州葛西某によって七〇七〇本が記録されたので尾州星野勘左衛門は早速準備にかり、翌九年五月一日八〇〇〇本を達成した。時に星野は二十八歳の青年であった。

「演武詳述は(四)参照」その後十七年の間はチャンピオンとして続いたが、然し行き懸かり上何とか尾州を打ち破らんとこれ努めた紀州は、貞享三年(一六八三)四月二十七日、若冠十八歳の和佐大八が挑戦して八二三本の記録を打ち立て、以後これをこすものがなかった。この時星野勘左衛門が観覽してアドバイスした物語があって、一層星野の名声を上げていた。

二、後世遺伝の基因

場所が京都であったことが最大の要因である。若し辺境の外様大名の地に興隆したとしても、おそらくこれ程全国注視の事業にはならなかったろう。更に、その最盛期が幕府親藩の尾州と紀州の藩士によって、その矢数が競われたことも又名声を高めた。特に星野勘左衛門の所業は神技とも、偉聖とも謂われる程で、通し矢を弥が上にも有名なものにした。

三、記録と年代

四、星野八千本の通し矢

当年二十八歳の勘左衛門は、度々の上洛に英姿颯爽として従容偉儀あり、極めて自信に満ちた出府であった。「八千」と大善した職を先頭に、門人・知人の外夫々の係として藩より差遣された総数五十余人は、寛文九年四月京都に乗り込んだ。

所司代と三十三間堂の蓮華土への届出やら、検査役その他一切の設備万端を整えるに十日程を要し、いよいよ五月一日暮六ツより射はじめた。現代の様にはナイターの設備もない時代では、照明は勿論篝火と提灯等で堂前の葉松となつた緑蔭の静寂を浮き彫りにし、張り巡らされた尾州公定紋入りの幔幕のうちに大業いまや行なわれんとす、演出効果十分の雰囲気の中で、一矢通る毎に検査役の矢数声と太鼓、的方から扇をかざして次よしの合図、勘左衛門は余裕綽々、一途に矢を通した。

五、勘左衛門の射技

東天紅に染まり、残月西に傾く頃ともなれば、やや睡気さえ催し矢勢も落ちて来た、通し矢四千本のとき、当人は少憩を申し入れ許されるとその儘ゴロリと横になって休息した。無論眠る訳ではないが一時余りも休憩が続いた。驚いたのは同藩応援の者と見物の衆である。行射自由の規則とは言え、徒らに時を空費し果たして記録更新成るものやらと、然し再び射始めれば、飛箭疾風の如く矢矢なく、十時頃には七千を超え、正午前に八千本を通したので観衆は驚嘆しその精妙に感服したのであった。思いきった気分転換が無駄矢をなくしたものであるが、人々さらに敬服したのは彼の言辭である。「余力も時間もまだあるが、私が今大記録を立てれば、将来世の弓人は吾に凌駕するの困難を思い堂射の希望をなくすであろう、それは日本弓術の衰え

六、將軍上覧の射

寛文九年六月、通し矢日本一の星野

ともなるので、後進の為にもこれ以上の射は致しません。」と言いつつ、堂を降りてしまった。決して高言ではなかったことは、偉業を終えて、早速関係筋への挨拶廻りも丁重に済ませた後の祝宴では夜を徹して痛飲し、毫も平日と異なることがなかったと言ふ。

意気揚々として尾州に帰還し、藩公より恩賞として三百石が増された、計八百石となるから、通し矢一本が一斗に見積られたものか!!兎角藩主光友公は紀州に勝つたので、鼻高々の態は推察するに余りある。勘左衛門は弓矢奉行に精進して黒門頭となった。

堂射は速射を要求されるが、早気では絶対に成功しない。推測するに普通の射礼と堂射とは、稽古の段階から判然と区別、工夫して稽古しなければならぬ。弓は二寸づまりが適当の様だ、弓力は強い程よいが矢数を引くので、七分五厘か八分が精々であろうし、弦にも工夫が必要と思う。稽古場は三十三間堂と同じ条件に、軒高い、廊下の中、そして的と仮設のものを造り、三月月は最小限連続して稽古したのである。従って急に近的前にかかるとすれば、矢は上に飛び的に通はぬものである。

寛文九年六月、通し矢日本一の星野

寛文元年(一六六一)尾州星野勘左衛門は前後六回試みて五二〇本を記録した直後、紀州吉見台衛門が六三四本を出し、尾州を破った。翌二年、尾州星野勘左衛門が六六六本を記録すれば、六年後の寛文八年(二六六九)五月に紀州葛西某によって七〇七〇本が記録されたので尾州星野勘左衛門は早速準備にかり、翌九年五月一日八〇〇〇本を達成した。時に星野は二十八歳の青年であった。

「演武詳述は(四)参照」その後十七年の間はチャンピオンとして続いたが、然し行き懸かり上何とか尾州を打ち破らんとこれ努めた紀州は、貞享三年(一六八三)四月二十七日、若冠十八歳の和佐大八が挑戦して八二三本の記録を打ち立て、以後これをこすものがなかった。この時星野勘左衛門が観覽してアドバイスした物語があって、一層星野の名声を上げていた。

二、後世遺伝の基因

場所が京都であったことが最大の要因である。若し辺境の外様大名の地に興隆したとしても、おそらくこれ程全国注視の事業にはならなかったろう。更に、その最盛期が幕府親藩の尾州と紀州の藩士によって、その矢数が競われたことも又名声を高めた。特に星野勘左衛門の所業は神技とも、偉聖とも謂われる程で、通し矢を弥が上にも有名なものにした。

三、記録と年代

四、星野八千本の通し矢

当年二十八歳の勘左衛門は、度々の上洛に英姿颯爽として従容偉儀あり、極めて自信に満ちた出府であった。「八千」と大善した職を先頭に、門人・知人の外夫々の係として藩より差遣された総数五十余人は、寛文九年四月京都に乗り込んだ。

寛文元年(一六六一)尾州星野勘左衛門は前後六回試みて五二〇本を記録した直後、紀州吉見台衛門が六三四本を出し、尾州を破った。翌二年、尾州星野勘左衛門が六六六本を記録すれば、六年後の寛文八年(二六六九)五月に紀州葛西某によって七〇七〇本が記録されたので尾州星野勘左衛門は早速準備にかり、翌九年五月一日八〇〇〇本を達成した。時に星野は二十八歳の青年であった。

「演武詳述は(四)参照」その後十七年の間はチャンピオンとして続いたが、然し行き懸かり上何とか尾州を打ち破らんとこれ努めた紀州は、貞享三年(一六八三)四月二十七日、若冠十八歳の和佐大八が挑戦して八二三本の記録を打ち立て、以後これをこすものがなかった。この時星野勘左衛門が観覽してアドバイスした物語があって、一層星野の名声を上げていた。

二、後世遺伝の基因

場所が京都であったことが最大の要因である。若し辺境の外様大名の地に興隆したとしても、おそらくこれ程全国注視の事業にはならなかったろう。更に、その最盛期が幕府親藩の尾州と紀州の藩士によって、その矢数が競われたことも又名声を高めた。特に星野勘左衛門の所業は神技とも、偉聖とも謂われる程で、通し矢を弥が上にも有名なものにした。

三、記録と年代

四、星野八千本の通し矢

当年二十八歳の勘左衛門は、度々の上洛に英姿颯爽として従容偉儀あり、極めて自信に満ちた出府であった。「八千」と大善した職を先頭に、門人・知人の外夫々の係として藩より差遣された総数五十余人は、寛文九年四月京都に乗り込んだ。

所司代と三十三間堂の蓮華土への届出やら、検査役その他一切の設備万端を整えるに十日程を要し、いよいよ五月一日暮六ツより射はじめた。現代の様にはナイターの設備もない時代では、照明は勿論篝火と提灯等で堂前の葉松となつた緑蔭の静寂を浮き彫りにし、張り巡らされた尾州公定紋入りの幔幕のうちに大業いまや行なわれんとす、演出効果十分の雰囲気の中で、一矢通る毎に検査役の矢数声と太鼓、的方から扇をかざして次よしの合図、勘左衛門は余裕綽々、一途に矢を通した。

東天紅に染まり、残月西に傾く頃ともなれば、やや睡気さえ催し矢勢も落ちて来た、通し矢四千本のとき、当人は少憩を申し入れ許されるとその儘ゴロリと横になって休息した。無論眠る訳ではないが一時余りも休憩が続いた。驚いたのは同藩応援の者と見物の衆である。行射自由の規則とは言え、徒らに時を空費し果たして記録更新成るものやらと、然し再び射始めれば、飛箭疾風の如く矢矢なく、十時頃には七千を超え、正午前に八千本を通したので観衆は驚嘆しその精妙に感服したのであった。思いきった気分転換が無駄矢をなくしたものであるが、人々さらに敬服したのは彼の言辭である。「余力も時間もまだあるが、私が今大記録を立てれば、将来世の弓人は吾に凌駕するの困難を思い堂射の希望をなくすであろう、それは日本弓術の衰え

六、將軍上覧の射

寛文九年六月、通し矢日本一の星野

勸左衛門に、四代將軍家綱公からお召しがあった。彼は御嘉賞の上に、巻藁射れくらいは所望されるだろう!!と思つて江戸に下向、早速登城すると急造の御前矢場が出来ていて、「御手並拜見」と重役方から注文づけられた、勿論御上覧である。ところが堂射の習性と上覧の氣負いか、甲矢は的の二三尺上、塚の壁に中つてしまった。当人は「シッター」と思ったがもう遅い、この際絶対に言い訳は出来ない。すると「御中りを拝見」と乙矢の催促、一まよ、目付を下げて的中れば甲矢の失敗を白認することになる。二本揃えてやれと不慥くされて放つた矢は、甲矢の筈を射て深く割り込み矢継ぎ矢となつた。勸左衛門はこの時ほど天祐神助を感謝したことはない。と云う。

七、和佐大八の登場
星野勸左衛門四十五歳、御船奉行のとき、紀州藩、和佐大八、十八歳が勸左衛門の八千本に挑戦して立った。
快調に矢を通し、一千本を超える頃続けて百本も矢を落す様になった。あせり氣負う程落失は増すばかり。深編笠に面態を覆い、見物に来ていた星野勸左衛門は、「あたし若者が切腹もの」と直感し、堂々と名乗り出て「堂射は紀州と尾州だけの争奪ではない、何れ他藩の者もその力量を誇示して挑戦し

破ることもあるだろう、日本弓道のため、誠に結構!!許されるならば、私は今和佐氏の押手の凝りを療してみたいが、如何」と、最初は紀州随伴の者一同は疑心暗鬼して、星野を睨み、近付けようとしなかったが、真心こめての勧告に先ず誰よりも当人大八が心よく容れて、掌の下と肩に鍼を受け、小半時ほど休憩した。その後は急に調子を上げ、遂に八三本の通し矢に成功したのである。勸左衛門に謝意を述べんと堂の内外を探ねたが、星野は再び和佐大八の前には現れず何処かへ立去つていた。
汝の敵を愛した雅量と厚德、そして見事な和佐大八の記録が、十七年後に改めて星野勸左衛門の名に箔を付けたのである。
種々の点から推定して、勸左衛門ですら総矢数に対して通し矢は六、七割と謂われ、三割前後の落失は出たものと思う。通し矢八〇〇〇が八割として、総矢数は一〇〇〇〇本、七割として、一一四二八本、六割として一三三三三本の総矢数となる。二十四時間行射すれば、一時間平均四、五千本を射込むことになるので、実に容易ならざる射業である。
練習の七割が本番で出せば、絶対優勝と今でも言い訓されている。

茨城県弓道連盟 理事長
木村喜久雄

県外派遣について
7月22日 全日本弓道選手権大会
(9月20・23) 関東地区代表
選手決定戦

11月23日 関東地区弓道選抜選手権大会
会派選手
称号受有者の部(県選考射会結果順)
久保田 清 教士七段
川瀬 政人 教士六段(辞退)

明年の全国高校総合体育大会に備えて、茨城県武道館弓道場の増改築工事があり、四月中旬より八月までは道場の使用不可期間となり、県連主催行事は土浦市、東海村、ひたちなか市の施設等を利用し、消化するという不自由さがありました。しかし他県に誇れる弓道場に生まれ変わり、共用再開の九月には関東地区弓道連合審査に引き続き、六・七段・錬士対象の臨時中央審査会を実施し、錬士の部においては別掲のように、本県は五名の合格者を生むことができました。

一般有段者の部(県選考射会結果順)
緑川 慎一 五段
米山 良美 五段
市村 昌子 五段
市毛 和之 二段
菊池 俊和 三段
山口 聡 五段

「男子」
久保田 清 教士七段(関東代表決定)
張替 謙一 教士七段(関東代表決定)
明間 勲 教士七段

「女子」
市毛 道子 教士七段(関東代表決定)
高橋 輝子 教士六段(茨城県代表決定)
網川 久子 教士六段
海老根芳江 教士六段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段

「男子」
久保田 清 教士七段(派遣決定)
小沼 勝則 五段(派遣決定)
菊池 俊和 四段
小松 輝久 初段

「女子」
石井 和子 錬士五段(派遣決定)
青山すみ子 五段(派遣決定)
小林あゆみ 三段
石井 幸子 錬士五段(派遣決定)
川崎 美香 四段



◎茨城県の参加者数102名
中央講習会等受講者派遣
6月22日 東部女子講習会(弘前市)
高橋輝子 教士六段
安藤明子 錬士六段
6月23、24 関東北部地区指導者講習会(千葉市)
張替 謙一 教士七段

〔鎌 土〕

宇都宮市弓道場

清水 匡 教士六段
関 正美 教士六段
木村喜久雄 教士六段
国谷保五郎 教士六段

6月2日(浜松) 氏家 充義
8月14日(高知) 根本 栄治
9月8日(水戸) 市毛 孝治

関東地域弓道選抜選手権大会
・団体
優秀地連賞

10月4、6 中央研修会(9月20日現在研修候補者扱い)

9月8日(水戸) 萩谷 好浩
9月8日(水戸) 吉田 正子

第二位 茨城県(的中率66.7%)
・個人

明開 勲 教士七段

9月8日(水戸) 福永 弘

称号者の部 第五位 久保田 清

海老根芳江 教士六段

9月8日(水戸) 小沼 勝則

有段者の部

10月6、8 第14回全国健康福祉祭
広島大会(ねりんピック)

9月29日(盛岡) 柴原一利子
12月9日(浜松) 吉川 静雄

全弓連特別賞 緑川慎一
優勝 緑川 慎一

茨城県代表選手(60才以上)

12月23日(東京) 小武内弘子

第二位 菊地 俊和
H13年8月12日・13日

監督 堀江 栄

お悔やみ
9月6日逝去

高知県立武道館弓道場
第32回全日本教職員弓道選手権大会

選手 武藤ヒサエ

注松 秀利氏(水戸・錬士五段)

高知大会

介川 達

特記事項

女子の部 第三位(大金・柴・高野)

高橋 平古

5月26日 中央道場 明治神宮至誠館

男子の部 第三位(柴谷・北島・白石)

伊藤 富雄

第2道場 視察(兼 講習会)

H13年10月13日・17日 仙台市

山口 みち

◎中央審査合格者

第56回国民体育大会弓道競技
少年女子連射 第三位

3月26日(郡城) 廣水千加代

◎県外大会成績について

H13年12月2日 明治神宮至誠館弓道場
全日衛隊弓道大会

6月3日(浜松) 枝並 正容

9月20日・21日 伊勢神宮弓道場

明治神宮至誠館弓道場
全日衛隊弓道大会

7月7日(仙台) 石井 誠

第52回全日本男子弓道選手権大会

・団体
百里(大貫・杉山・富山)

9月8日(札幌) 山口 恭弘

11月3日

・個人(三段以上)

9月9日(水戸) 浜野 昇

明治神宮至誠館弓道場

四位 大貫富士男

11月10日(東京) 林 昭夫

第10回明治神宮奉納全国弓道大会

六位 杉山義光

11月10日(東京) 中井川一郎

称号者の部 第三位 介川 達

11月25日(福岡) 長谷川 仁

11月23日

競技部だより

曲山 伊之吉

会員の皆様様益々お元氣にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

本年の競技大会は、県立武道館の増築工事の為、四ヶ月の間使用出来ず県選手権大会、県民総体は、上浦市武道館弓道場、ひたちなか総合体育館弓道場に夫々別れての実施となりました。その際は地元支部の絶大な協力を賜り、設備面の不備を克服し円滑な競技運営ができました。また地区当番で運営を担当して頂いた方々も合わせて改めてお礼申し上げます。また本年度は競技大会賞品を増加して競技意欲を向上させることに努めて居ります。奮って参加してください。

大きく変更になったことは、県民総体の参加時に加入する傷害補償制度加入金が従来の三百円から一気に千円になったことです。本年は県弓連が半額の五百円を助成して、参加者は半額の五百円として参加者が金額負担になりましたが、今後は参加者が金額負担になると思います。

この送金については競技参加料と合わせて内容明記の上郵便振替で送金して下さい。

競技大会に参加することで皆様の夢と希望を拡大し、自分の足で茨城県弓道連盟を支える自負心を以てご協力をお願い致します。

茨城県弓道連盟各種大会結果 (平成12年度・13年度)

平成12年度

大会名	月日	表	彰	第一位	第二位	第三位	最高得点	優秀賞
支部対抗	11/29			筑波大 A	藤代 B	八勝 郷 A		
新春射会	1/21	三四五号	の部の部	池沼俊和 菊小敏	和則和 池沼俊和 菊小敏	生喜道 山曲伊吉		

平成13年度

大会名	月日	表彰	第一位	第二位	第三位	最高得点	優秀賞
勤労者弓道選手権大会予選会	4/9	団体 個人	三菱化学A 三杉山久行	茨城日立A			
県武道館親善弓道大会	4/15	一般の部 称号者の部	根本栄治 手塚栄	長島利行 山久行	鈴木正太郎 清水匡		
春季大会	4/15	団体の部 男子個人の部 女子個人の部 称号者の部 団体優秀の部 個人優秀の部	下館市D 根本栄順 飯手塚栄 霞ヶ浦幸 小松正	ひたちなか市 長園美久 藤代山良 米山	A市 行子行 久行B 美	百里航空自衛隊 鈴木正太郎 小武内弘子 清水匡 ひたちなか市 小武内弘子	
県選手権大会	5/20	称号者の部	久保田清	川瀬正人	市毛道子	久保田清	
	5/27	三段以下の部	石毛和之	菊池俊和	佐藤孝至		初段 田中広海 二段 金沢長生 三段 菊池俊和
		四段以上の部	緑川慎二	米山良美	市村昌子		四段 山崎芳美 五段 米山良美
県民総合体育大会	6/17	三段以下男子 三段以下女子 四段以上男子 四段以上女子 称号受有者	香川弘二 西野文子 飯島清子 萩野綾子 関谷正美	石和子 毛沼沼 和恭勝悦 田小浜野 沼明間	之子則子 福長好石 古橋孝将 田晴利道 島田道誠 井		
遠的大会兼遠的選手権予選会	8/5	男子の部 女子の部	久保田清子 石井和子	小沼勝則 青山すみ子	菊池俊和 小林あゆみ		
青年大会兼全国大会予選	8/12	団体	高萩市	行方郡	下館市		
第25回中野杯記念大会	9/16	成年男子の部 成年女子の部 称号者の部	緑川慎二 好田子智 吉田	小沼勝則 中井川美好 木村喜久雄	福永弘 萩野谷綾子 石井誠		
段位別大会	10/21	二段以下の部 三段の部 四段の部 五段の部 称号者の部	宅野陽一 間昭俊 菊地山良 米吉田	平須賀功 楠登志子 昆野美智 森宏信 戸平	垣本ゆかり 鹿島みゆき 丸山陸子 山泉清子 飯谷敦	宅間陽一 楠登志 菊地俊 米山良	
支部対抗	11/23		筑波大A	ひたちなか市 湊A	神栖町B ひたちなか市 勝田A		

第五位	島田一也	三中	高萩
第四位	香川弘二	三中	内原
第三位	栃木勝彦	四中	栃木
準優勝	岩間捷雄	四中	水戸
優勝	菊池俊和	四中	藤代
★一般男子の部			
第五位	竹島知江	四中	日立高
第四位	木戸愛美	四中	太田二高
第三位	千ヶ崎裕子	四中	清真学園
準優勝	白治聡子	四中	茨城高
優勝	熊谷ひとみ	四中	土浦二高
★高校女子の部			
第五位	池延祐司	三中	霞ヶ浦高
第四位	助川裕祐	四中	土浦日大
第三位	大谷慎吾	四中	佐和高
準優勝	町田健彦	四中	石岡商業
優勝	平野真一	四中	日立一高

県内地方弓道大会報告

▼第四十四回親梅弓道大会

とき 平成13年3月18日

ところ 茨城県立武道館弓道場

競技内容 四射的中制個人順位決定

参加者数

高校男子の部 二五二名

高校女子の部 三二二名

一般男子の部 一〇五名

一般女子の部 八二名

◆表彰

★高校男子の部

優勝 平野 真一 四中 日立一高

準優勝 町田 健彦 四中 石岡商業

第三位 大谷 慎吾 四中 佐和高

第四位 助川 裕祐 四中 土浦日大

第五位 池延 祐司 三中 霞ヶ浦高

★高校女子の部

優勝 熊谷ひとみ 四中 土浦二高

準優勝 白治 聡子 四中 茨城高

第三位 千ヶ崎裕子 四中 清真学園

第四位 木戸 愛美 四中 太田二高

第五位 竹島 知江 四中 日立高

★一般男子の部

優勝 菊池 俊和 四中 藤代

準優勝 岩間 捷雄 四中 水戸

第三位 栃木 勝彦 四中 栃木

第四位 香川 弘二 三中 内原

第五位 島田 一也 三中 高萩

★一般女子の部

- 優勝 石井 和子 四中 ひたちなか
- 準優勝 根本 鈴子 三中 水戸
- 第三位 好田 道子 三中 藤代
- 第四位 吉田 三紀 三中 藤代
- 第五位 栗原 絵美 三中 筑波大

▼土浦桜まつり弓道大会

- とき 平成13年3月31日(土)
- 学生部の部
- 平成13年4月1日(日)
- 一般の部

ところ 土浦市武道館弓道場

★学生の部

- 一手四ツ矢計六射立射
- 一般の部

- 一手坐射四ツ矢立射計六射
- 団体三名の的中数合計

参加者数

- 中学生 七二名
- 高校男子 二六六名
- 高校女子 二六八名
- 一般 一一二六名

◆表彰

- ★中学の部
- 優勝 竹田 翔 竹来 五中
- 準優勝 瀬谷健太郎 五中
- 第三位 小沢 有香 三中
- 第四位 稲葉 浩一 三中

第五位 絹張 恵々 三中

★高校女子の部

- 優勝 塚原 望 八千代 五中
- 準優勝 中嶋 みさ 土浦二 五中
- 第三位 脇田 夏実 土浦一 五中
- 第四位 斎藤 千晶 土浦三 五中
- 第五位 中嶋 祥子 土浦三 五中

★高校男子の部

- 優勝 吉田 佳志 土浦工 六中
- 準優勝 都司 一 竜ヶ崎一六中
- 第三位 長尾 晃輔 土浦三 六中
- 第四位 木鈴 武 土浦工 五中
- 第五位 池延 祐司 霞ヶ浦 五中

★一般個人の部

- 優勝 菊池 俊和 藤代 六中
- 準優勝 福永 弘 藤代 五中
- 第三位 鈴木正太郎 下館 五中
- 第四位 飯泉 順子 下館 五中
- 第五位 石井 誠 ひたちなか湊五中

★一般の部

- 射詰 菊池 俊和 藤代
- 団体優勝 土浦
- 中座・海老原・助川 十一中
- 準優勝 ひたちなか湊
- 平戸・郡司・石井 十一中
- 第三位 藤代 菊池・加藤・谷池 十一中

▼第三十回村松弓道大会

- とき 平成13年4月1日
- ところ 東海村営弓道場
- 競技内容 立射四ツ矢一回余興的板割
- 参加者数
- 小学生 二二名
- 中学生 一六三名
- 高校生 二二二名
- 一般 七五名

◆表彰

- 優勝 井上明日香
- 準優勝 金沢 健太
- 第三位 村上 浩平
- 射詰
- 優勝 山崎 弘道 大宮高
- 総合
- 優勝 藤原 真澄 佐和高
- 準優勝 山崎 弘道 大宮高
- 第三位 増田 泰裕 湊一高

▼第十一回山さくら弓道大会

- とき 平成13年4月8日
- ところ 新治村国谷弓道場
- 競技内容 四ツ矢二回花ぶき
- 参加者数 一般 一一二名

◆表彰

- ★花ぶき金的の部
- 萩谷 好浩 ひたちなか市勝田
- 国谷 のぶ 新治

★競射の部

- 優勝 高梨 嘉隆 土浦 七中
- 準優勝 白井 秀利 友部 七中
- 第三位 赤嶺 幸子 取手 六中
- 第四位 山崎 芳美 取手 六中
- 第五位 福田 晴美 新治 六中
- 第六位 足立 喜次 八郷 六中
- 第七位 坂本 允 牛久 六中
- 第八位 楠木トシ子 取手 六中
- 第九位 菊池 政行 六中
- 第十位 飯泉 清 下館 六中

倉田 浩平

★一般の部

- 射詰
- 優勝 萩原 裕一 友部
- 準優勝 石井 誠 ひたちなか市湊
- 射詰
- 優勝 浜野 悦子 下館市 皆中
- 準優勝 富森 俊一 三菱化学 皆中
- 第三位 岡野 栄治 東庄町 皆中
- 団体
- 優勝 ひたちなか市湊チーム 五中
- 平戸 信行・石井 和子・石井 誠

▼第二十二回神栖町弓道大会

- とき 平成13年5月13日
- ところ 神栖町武道館弓道場
- 競技内容 射詰一手・射込四ツ矢一回
- 団体三人組各一手
- 参加者数 高校生五三名、一般六八名

◆表彰

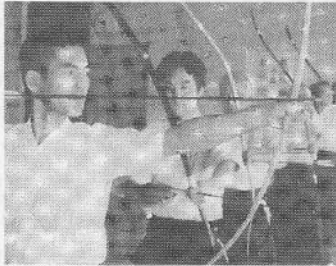
- ★高校の部
- 射詰
- 優勝 高野 哲史 銚田一高
- 準優勝 鬼沢 栄史 石岡一高
- 射込
- 優勝 山本 敦司 市立銚子 皆中
- 準優勝 千ヶ崎慶一 銚田一高 皆中
- 第三位 豊崎 大輝 石岡一高 皆中
- 団体
- 優勝 土浦工業高校Aチーム 四中
- 木鈴 武・白坂 拓也

▼県南弓道大会

- とき 平成13年8月12日
- ところ 取手市グリーンスポーツセンター弓道場
- 競技内容 一手坐射・四ツ矢立射 計六射
- 参加者数 一五九名

◆表彰

- ★高校女子の部
- 優勝 堀金 明恵 藤代高校 四中
- 準優勝 小林 由佳 竜ヶ崎一高 四中
- 第三位 花田 徳子 江戸川学園取手 高 四中
- 第四位 鴻巣佐和子 取手第一 高三中
- 第五位 小山 由佳 竜ヶ崎一 高三中
- ★高校男子の部



精神を集中して弓を引く選手たち
久保田 昭平(左) 上浦工業高四
久保田 雄(右) 上浦工業高四

弓道・遠的県大会兼全日本選手権選抜会 県武道館に78人の射手集う

60が前方の的を射る弓道遠的県大会兼全日本選手権選抜会が、20日、県武道館に78人の射手を集めて開催された。県内各地から参加した男女78人が、この日、県内各地の武道館で開かれた。県内各地から参加した男女78人が、この日、県内各地の武道館で開かれた。県内各地から参加した男女78人が、この日、県内各地の武道館で開かれた。

一心に的を射る

優勝	柳生 文裕	霞ヶ浦高	五中	第四位	桜井 信一	竜ヶ崎市	四中
準優勝	根岸 正弥	藤代高	五中	第五位	佐々木 浩	取手市	三中
第三位	吉岡 昭平	竜ヶ崎一高	四中	★一般四段以下の部			
第四位	久保田 雄	上浦工業高	四中	優勝	横田 和夫	取手市	五中
第五位	中野 啓	上浦工業高	四中	準優勝	吉沢 信二	藤代町	五中
★一般三段以下の部				第三位	山崎 芳美	取手市	四中
優勝	芳藤 敏行	守谷町	六中	第四位	助川 末広	土浦市	四中
準優勝	原日喜久男	麻生町	五中	第五位	塩崎 裕治	取手市	四中
第三位	宇野 篤也	つくば市	四中				

読売タウンニュースより抜粋

指導部だより

指導部長 張 替 謙 一

平成十三年度指導部方針

目標(平成十二年と同じ)

各段階別にレベルアップを図り、県外大会、県外審査に通用する射人を養成する。

一、本年度の目標

1 県内講師の養成

講習会の講師として実際に指導に当たり学ぶ機会をつくる。

2 講習会の充実(内容の検討)

3 指導部の充実

指導できる指導部を目指して二、目標達成のために次のことを実施する。

1 県内講師の育成

講習会の講師として実際に指導に当たり学ぶ機会をつくる。

(1) 練士の講習会を実施し、若手練士を講師として活用する。

(2) 県外の講習会受講者は積極的に活用する。

(3) 県講師研修会の実施

ア・統一した指導と講師としての教養を深めるために、実技はもとより競技形式座学を含め研修する。

(4) 全日本弓道連盟主催講習会・関東連合会主催講習会派遣者

の選抜

ア・適切な人材派遣とその活用(指導力・年齢等)

イ・受講後の伝達義務を課す。

2 講習会の充実

講習会の持ち方について(1)各段階別に指導案を作成し、指導部主導のもとに統一された講習会を実施する。

ア・県講習会と地区別講習会との指導内容について検討する。

イ・各講習会の各段階ごとに指導目標を徹底する。

ウ・地区講習会は指導部の計画に沿って2地区合同で一回実施

エ・講師の適切な配置をはかる。年齢・経験を考慮し、講師を組み合わせる。オ・講習会には指導担当者は必ず出席し、指導の円滑化をはかる。

(1) 三段以下

平成十二年度とおりシリーズとして実施したいが、会場の都合により、地区の講習会をこれにあてて実施する。

ア・地区別に2地区合同で一回

イ・全域で一回実施する。

(2) 四五段

四段と五段に分けて実施する。ア・四・五各段別に2回、各段の課題別に実施する。

イ・四五段合同で1回実施する。

(3) 練士講習会

県中堅指導者講習会として位置づける。

練士講習会を2回実施する。

(4) 称号者講習会

相互研修を中心として称号者としての意識を高め、県内指導者としての自覚をはかる。

(5) 60歳以上特別講習会

教練士合同で2回実施する。

趣味および生涯体育として基本を忠実に指導する。

(6) 地区別講習会

今年度は数地区を合わせ、参加資格を三段以下に限定し基礎を確実にする。

4 指導部の充実

(1) 指導部の意思統一と研修

(2) 適切な指導部構成をはかる

年齢構成、指導力

(3) 指導担当、事務担当の二部に分け、指導部の運営に当たる。指導担当は称号者以上、事務担当はその限りではない。

以上、指導部の本年度の目標について述べました。すでに講習会の半分以上は実施しましたが、その参加数については昨年の実績を下回っています。理由としては武道館が前半において使

用できず、昨年のような計画的な講習会を実施できなかったことがあげられると思います。

ただ、三段以下と限り、地区講習会を二地区合同で実施したことについては、参加者から普段なかなか質問できないことも、講師を身近にして疑問を解決出来たという声もありました。この三段以下の講習会については来年度も実施の方向で考えていきたいと思えます。

四・五段については、まだ未知教と言えます。将来の県弓道連盟はこの層の充実にかかっているのですが、基礎基本が身に付けていない人が多く見られます。

昨年度、基礎基本を学ぶ事を中心に、三段以下、四五段の各講習会を四回のシリーズとして弓道を学ぶ上で大切な基本的な射術に関する事、教養に関する事について一通り講習しました。

それらを個々に深めて段階的に今年に向けている人たちがいると同時に、残念ながら、考えも技術も足踏みしている方々もいました。

来年度はまた、シリーズを復活し、技術はもろろん弓道の一般教養に至るまでの基本的な知識を学ぶための基礎となるような講習を計画したいと思っています。それと同時に、将来におい

て、弓道史及び現代弓道についての簡単な手引き書が作れないかと模索しています。

趣味のため、健康のため、悟りを開くため等々、それぞれの弓道を学ぶ理由があります。すべての要望には応えられませんが、学ぶための方向だけでも示唆できるように指導部として考えてゆきますので、どうか意見等をお聞かせください。

教歌一つ

春かへて秋の梢を凄まじきもみち重ねの風吹くなり

春かへてとは、春夏にかけての季節の推移をいいます。その意とする心は射形をうつくしきように射なして次第につよみの至る事を春夏にたとへてい

ます。修学至りて自師賢覚の藝の境地に及ぶ時は、ただ目前の美しさだけの秋の季節は過ぎ去って凄まじく森々(深々)と見えます。これが秋の心というものです。

紅葉重ねというのは、秋の梢より美しきもみちを風が吹き去って皆下に落ちたとき、美しい紅葉は下に落ち重なり、凛々しく孤高に立つ梢は凄しく見えるという心を以て紅葉重ねというのです。竹林派では、紅葉重ねをこのように伝えていきます。ただ、手の内だけをいうものではないのです。

道場

訪問

それぞれの地域において、私邸の一部に設けられた施設を、同好の志に、または地域の人々の修練の場にと快く開放し、弓道発展のための基盤作りを永年尽力されておられる方々の道場を一日訪問しましたので、その道場の佇まいや、会員の方々の練習風景などを紹介します。

三盛館 北浦町支部

七月初め訪れた、北浦町小貫にある久力弓道場「三盛館」(昭和58年5月)



は広大な敷地の奥まった一角に、緑深い木々に囲まれてありました。茶室を思わせる雰囲気、道場は二人立ちで、左手には昔ながらの木々の立つ土手。そのままに探奥まっつて見える。美しく手入れをされた芝生の先にひっそりと静まり、内に入ればひんやりと涼やかで、ここで静かに瞑想に耽り心を澄ましたらなんとどこか射に集中出来るのではないかと思われる。

道場主の久力重久さん(三段)はもの静かに「兄と息子も弓を引いています、三盛館は父の名前をもらって付けました」と云われる、弓道一家である。

このような道場で修練を重ねられる事は、弓道の求める「礼の心」や協調和平の精神等が自然に培われるのではないかと感じられる一日でした。

「養気館」霞ヶ浦町支部

八月半ばの上曜日、霞ヶ浦町牛渡にある宮嶋弓道場「養気館」(昭和57年11月)を訪れました。

鬱蒼と茂る、三〇〇年は越えていると云う椎の大木に抱かれて三人立ちのその弓道場は明るく賑やかに運営されておりました。

道場主の宮嶋新右衛門さん(二段)の手によって三度に亘り増築された道



場では、「練心養気」の額の下に一〇名あまりの会員の方々が修練に汗をながしておりました。五月五日の牛渡にある鹿島神社の奉納射会は途中の中断はあっても何十年も続いており宮嶋先生の下がる思いでした。地名「牛渡」の由来と云う、その昔、先生の下がる思いで、こつて湖を渡り、たどり着いて息絶えたの支部の方々の永年の努力には本当に処だという、健気にも哀れな物語なども伺って、昔ながらの土地柄のやさしさ、きびしさ等も心打つ修養の時間でした。

総務部
だより

「いばらきの弓道」50周年記念誌
ができあがりしました

50周年記念誌刊行にあたっては総務部に資料編纂係を設け過去の資料の調査、収集等を行なってきました。その進歩状況は毎年発表などとして「弓道いばらき」に連載してまいりました。記念誌刊行に向けての収集は発刊間際まで続きました。また、「支部のありゆみ」では、支部史の編集にあられた各支部の方々には多人のご協力をいただきました。

「いばらきの弓道」50周年記念誌は会員が一九九〇年となってできあがった主ものといえます。おかげさまででき上がった記念誌は茨城県連保存版を若干残し完配されました。会員の希望者への配布の外、全日本弓道連盟、全国各地連、図書館などに献本しました。これまで他地連で刊行された「記念誌」「県連史」は秋田県、宮城県、山形県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、石川県、富山県、鹿兒島県があります。これについて茨城県の刊行は11番目となります。



編集風景

掲載を制愛しました資料は保存し、情報収集は継続してまいります。今後ともご協力をよろしく願います。
編集委員一同

編集後記

まさに光陰やの如し、瞬く間もなく一年が過ぎてあわただしく23号の発行となりました。

まず、関会長から県連発展、弓道発展のために何をなすべきかの項目を掲げられております。期待に応えたものです。

さて折しも県連発願の「いばらきの弓道」50周年記念誌の完成を見ました。これで私たちの茨城県弓道の歴史も顕現化され、時代の担い手としての責任と自覚が深まりました。担当された編集委員の方々にご苦労をねぎらい心からお礼を申し上げます。

また、矢吹名誉会長の三十三間堂のお話はいへん読み応えのあるものでした。そして、関根範士のスペインで開催された武道祭の記事は「スペインでの観衆の心の暖かさ」のおみやげに添えて、「混乱に対する安定した心と日本の武道人の誇り」「100年以上の日本武道に培われたスペイン武道

団のマネー」示唆ある良いお話をお聞かせいただきました。今回は会員の方々の声をお聞きして、身近な記事を考えてまいりました。そこで「弓道場紹介」の特集を企画いたしました。弓道発展の基盤づくりにご自分で弓道場を開かれ、弓道確保にご尽力頂いている方々が居られます。今回は北浦町支部の「三盛館」と霞ヶ浦町支部の「養気館」を紹介いたしました。次回もまた幾つかの弓道場を紹介させていただきます。

つきましては会員の皆様からのご情報を頂ければ幸いです。ご一報をお待ちしております。
(網川・廣水)

編集委員

園部 俊雄

網川 久子

廣水 千加代

